

神奈川県市長会東日本大震災被災地調査 及び世界文化遺産センター視察概要について

7月16日

☆ 岩手県遠野市 神奈川金太郎ハウス視察

施設の沿革

神奈川県が岩手県の被災地支援のボランティア活動の拠点として2011年4月24日に開設した施設で、神奈川県と神奈川災害ボランティアネットワークと神奈川県社会福祉協議会の三者協働で行っている。施設自体は遠野市社会福祉協議会に委託している。名前の由来は「気は優しくて力持ち」というイメージから神奈川県知事が命名した。

神奈川県民サポートセンターが所管しているため、同センターの松田所長が説明役となり、現在の活動状況や来年3月まで運営を行うことなど説明があり、同席した遠野市長も謝辞を述べられた。

☆岩手県遠野市視察 遠野市アエリア遠野にて意見交換を行った。

尚、遠野市からは市長以下30名近い幹部職員が出席された。

遠野市は、築40年の市役所本庁舎が被災したが、海岸地域にある市町ほどの被害はなくまた人命に関わる被害もなかった。被災後は、後方支援活動の拠点として自衛隊等が駐屯して支援活動にあたった。移動途中から遠野市長自らが神奈川市長会に合流し、案内をされる中遠野市の所有する宿泊施設アエリア遠野において、遠野市の果たした沿岸被災地後方支援の取り組みについて説明を受け、活発な意見交換を行った。

○主な内容

遠野市は三陸海岸に大津波が来た場合、後方支援の役割を担うという前提で、平成18年から19年にかけて構想をまとめ上げ、2回の実地訓練を実施して準備していたこと。実際災害が起こってみると、やはり仮設住宅の需要はあったが、被災地ではないため災害救助法に基づくものではない仮設住宅は直ちには立てられなかったなど、法律の壁があって苦労したこと。また首長として緊急時にリスクを冒してでも決断せねばならない覚悟を求められたこと。更には市職員と市民の多くの努力や官と民の連携が上手くいったため、後方支援を成し遂

げられてきたことなど、実例を上げて遠野市長から講和があった。

神奈川県市長会からは、共鳴する意見や、首長として先ず自らの市民を守り、後方支援に向かった時間的経過等への質問がなされた。

☆平泉町 平泉世界遺産視察 平泉文化遺産センターにて
平泉町出席者 菅原正義町長 ・世界遺産推進室千葉室長補佐

○主な内容

世界遺産登録に向けての経過の説明、取り分け決議を行う世界遺産委員会が、現地調査を行った専門機関 I C O M O S (国際記念物遺跡会議) の勧告により、平成20年7月、登録延期の決議を行ったこと。その後、様々な努力により平成23年9月に登録が決議される迄の経過説明がなされた。

神奈川県市長会からは、オール神奈川で遺産登録を目指す旨の発言の後、特に I C O M O S への対応や神奈川県としての支援等について質疑応答があった。

* I C O M O S (I n t e r n a t i o n a l C o u n c i l
o n M o n u m e n t s a n d S i t e s) = イコモス
とは記念物と遺跡の保存と修復に関する国際憲章を受け1965年に設立された文化遺産保護に関わる国際的な非政府組織(NGO) である。

7月17日

☆ 宮城県石巻市

○石巻市亀山市長 他

神奈川県内各市が支援にあたった市として、現在までの復興ぶりや課題などについて意見交換及び現地視察を行った。そのうち、

意見交換会の主な内容

○石巻市 星震災復興部長より震災前と後の人口推移、浸水等被災状況や住宅計画、防災集団移転促進事業等の説明があった。続いて災害廃棄物の説明が石巻市須田部長からあった。

○神奈川県市長会からは、復興推進地域の新市街地形成についてや農地転用等用地問題等で質問があり、星部長より答弁があった後、石巻市長も同行され南浜町地区等の被災地域の現地視察を実施した。

☆福島県南相馬市

同市については、現地でボランティアガイドを務める同市出身の佐藤氏の案内で現地視察のみを実施した。主に東京電力原町火力発電所付近、北泉海水浴場跡を視察。地震による家屋倒壊等により亡くなった方はなく、津波により650名が亡くなったこと。病院に入院中の方や福祉施設に入所中の方たちが避難時に亡くなられた、所謂震災関連死を含めると950名の方たちが震災で亡くなられたとの説明があった。

☆その後、途中全町民が避難して無人となった飯館町等を経て福島駅に到着し、3県に跨った視察を終え帰途に就いた。